

## 2021年のスギ・ヒノキ花粉飛散の予測

【記：山口県医師会常任理事／

沖中耳鼻咽喉科クリニック（花粉測定機関）院長 沖中 芳彦】

昨シーズンは、スギ花粉捕集総数を、県内測定機関の平均値として、平年値（直近10年間の平均値：当時は2,970個/cm<sup>2</sup>）の約半数の1,500個/cm<sup>2</sup>程度と予測しましたが、実測値は予測を上回る2,300個/cm<sup>2</sup>となりました。20測定機関中4機関で、それぞれの地点における平年値を上回る花粉が捕集されたため平均値を押し上げましたが、9機関においては平年値の半分程度、又はそれ以下の捕集数でした。一方、ヒノキは前シーズンまで2年連続して多くの花粉が飛散した影響か、430個/cm<sup>2</sup>（平年値は1,560個/cm<sup>2</sup>）という少ない捕集総数となりました（図1）。

さて、今シーズンですが、例年のように11月上旬にスギの木を観察しました。雄花を着けている枝の割合を筆者は便宜上「着花率」と称します

が、すべての観察木の平均着花率と花粉総数の一次回帰式（図2）によりますと、県内測定機関の平均値として、約2,100個/cm<sup>2</sup>というスギ花粉総数の予測値となりました。図3は年別のスギ雄花の着花率とスギ花粉数のグラフです。棒グラフは左軸で、県内全測定機関のスギ総数の平均値、折れ線グラフは右軸で、20数か所のスギの木の着花率です。折れ線グラフのように、着花率のばらつきがこれまで以上に大きくなっており、昨シーズンと比べて着花状態が良好な木（図4～7）、不良の木（図8～11）ともに認められます。

一方、ヒノキは少なかった昨シーズンと比べてもさらに花芽が少ないように思いますが（図12～13）、ヒノキの花粉形成はシーズン直前までの気象等さまざまな影響を受けると言われてい

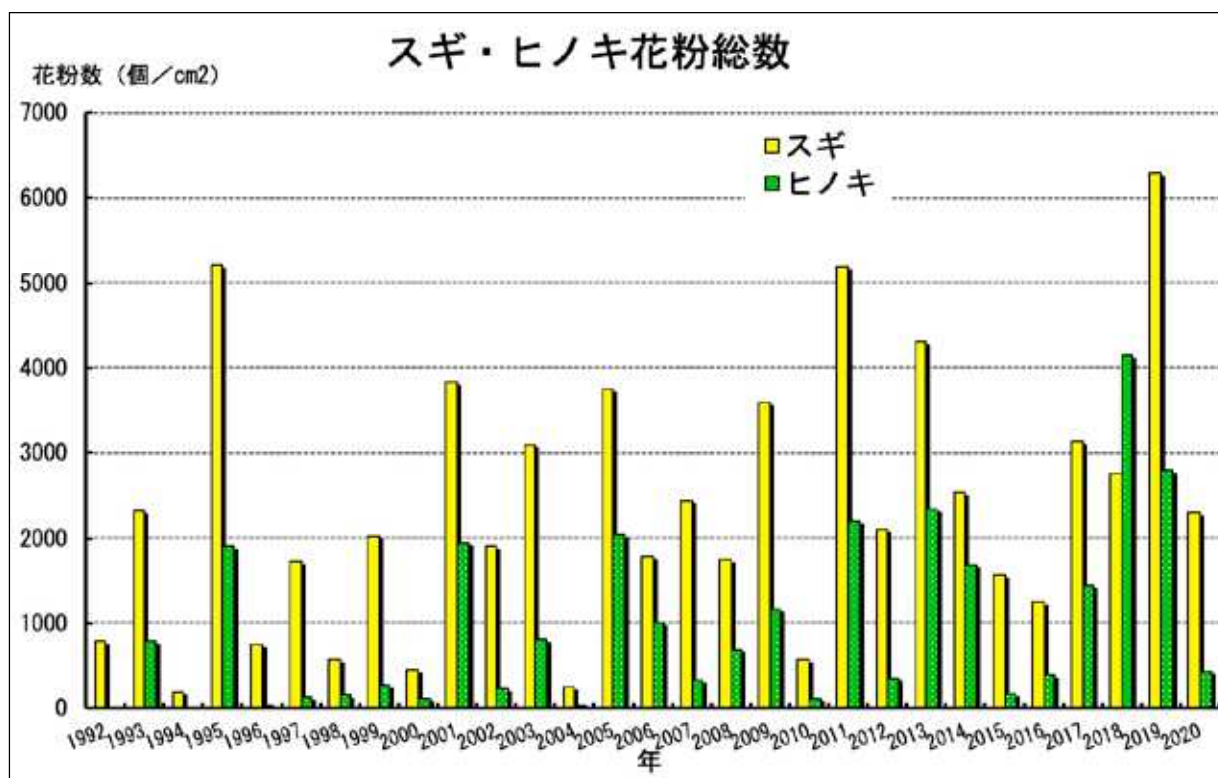


図1 年別スギ・ヒノキ花粉総数

るため、実際の飛散状況は蓋を開けてみなければわかりません。

ところで、前述のように昨シーズンのスギは平年値以下の飛散であったにもかかわらず、2010年のスギ総数が極めて少なかったため、今シーズンを迎えての平年値は前年を上回る3,140個/cm<sup>2</sup>と、何と3,000個を超える値となっ

てまいりました(図14)。今シーズンのスギ花粉総数が予測通りであれば、2年連続して前年を下回ることになり、また2年連続して平年値を下回ることになります。

お気づきになったと思いますが、スギ雄花の着花状態は昨シーズンよりも今シーズンの方が良好であり、予測値は昨シーズンが1,500個、今シ

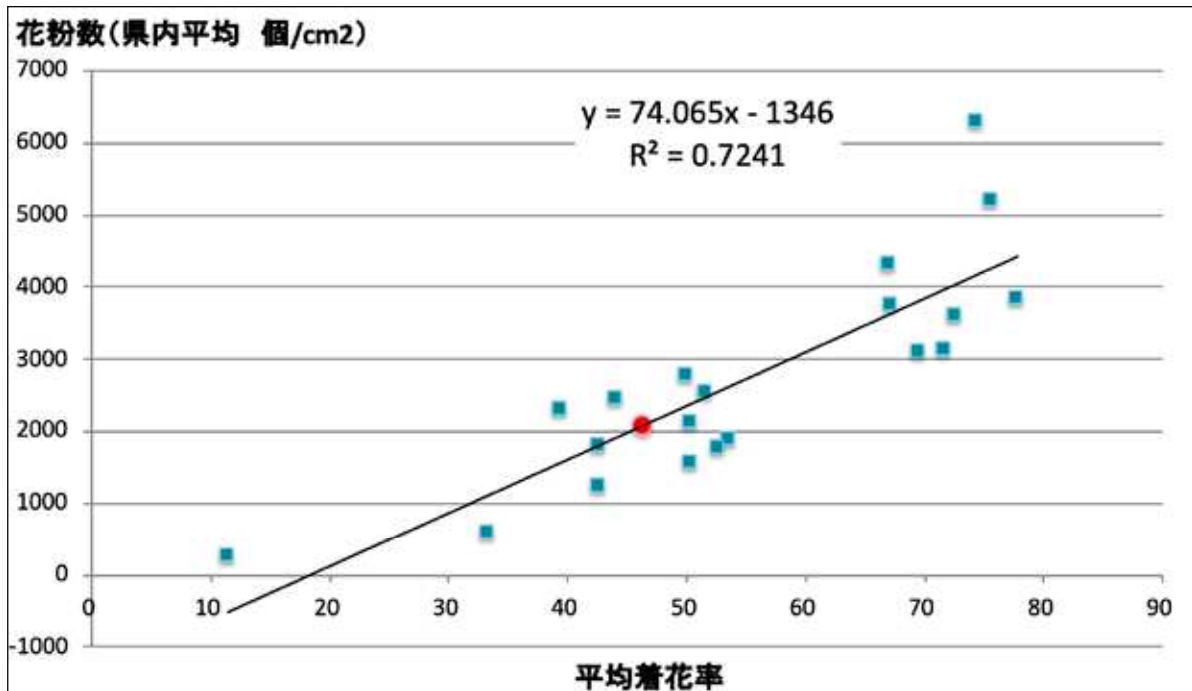


図2 一次回帰式による2021年のスギ花粉数の予測

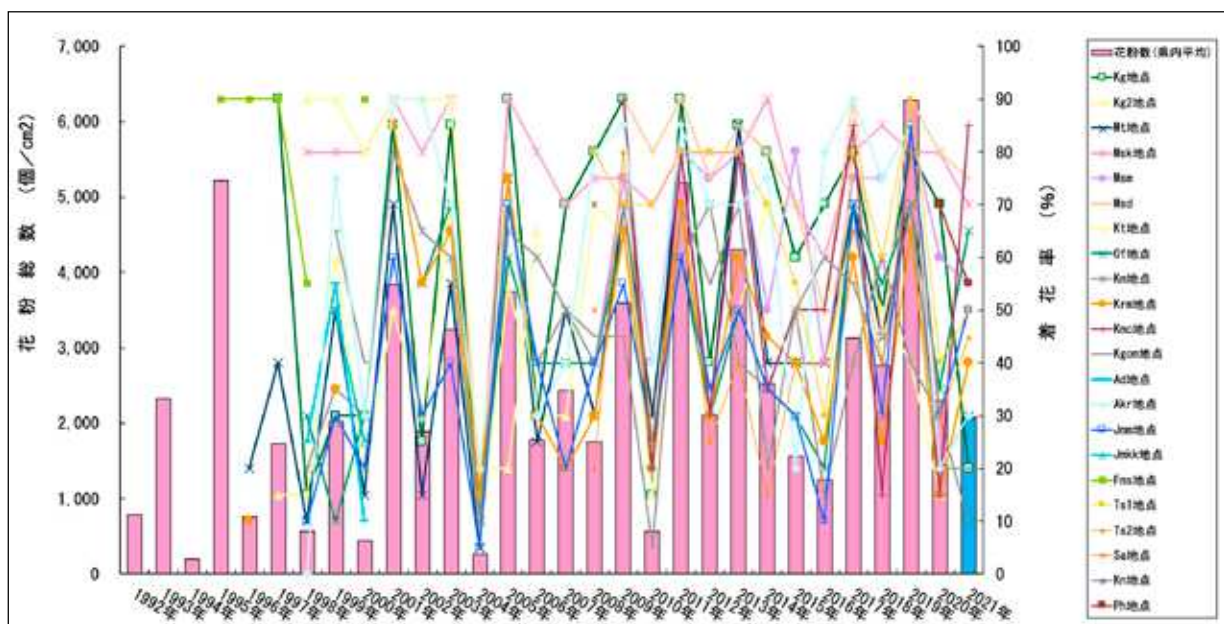


図3 花粉総数と着花率

ズンは2,100個ですが、昨シーズンは実測値が予測を上回る2,300個でしたので、今シーズンの予測値は昨シーズンの実測値よりも少な目の値となってしまいました。果たして実際の飛散はど

うなるでしょうか。平年値を下回るとしましても、10年前であれば平年値相当の数値です。新型コロナウイルスへの対策はもちろんですが、スギ・ヒノキ花粉にも十分な備えをお願いいたします。



図4 kzmg 地点のスギ (2019 年秋)



図5 kzmg 地点のスギ (2020 年秋)



図6 mt 地点のスギ (2019 年秋)



図7 mt 地点のスギ (2020 年秋)

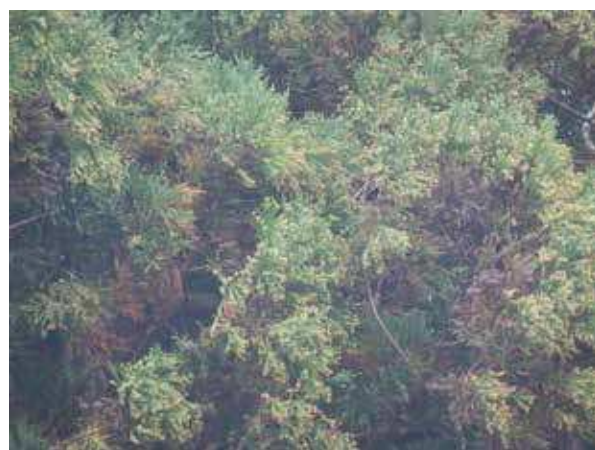


図8 ph 地点のスギ (2019 年秋)



図9 ph 地点のスギ (2020 年秋)



図10 kgm地点のスギ(2019年秋)



図11 kgm地点のスギ(2020年秋)



図12 kk地点のヒノキ(2019年秋)



図13 kk地点のヒノキ(2020年秋)

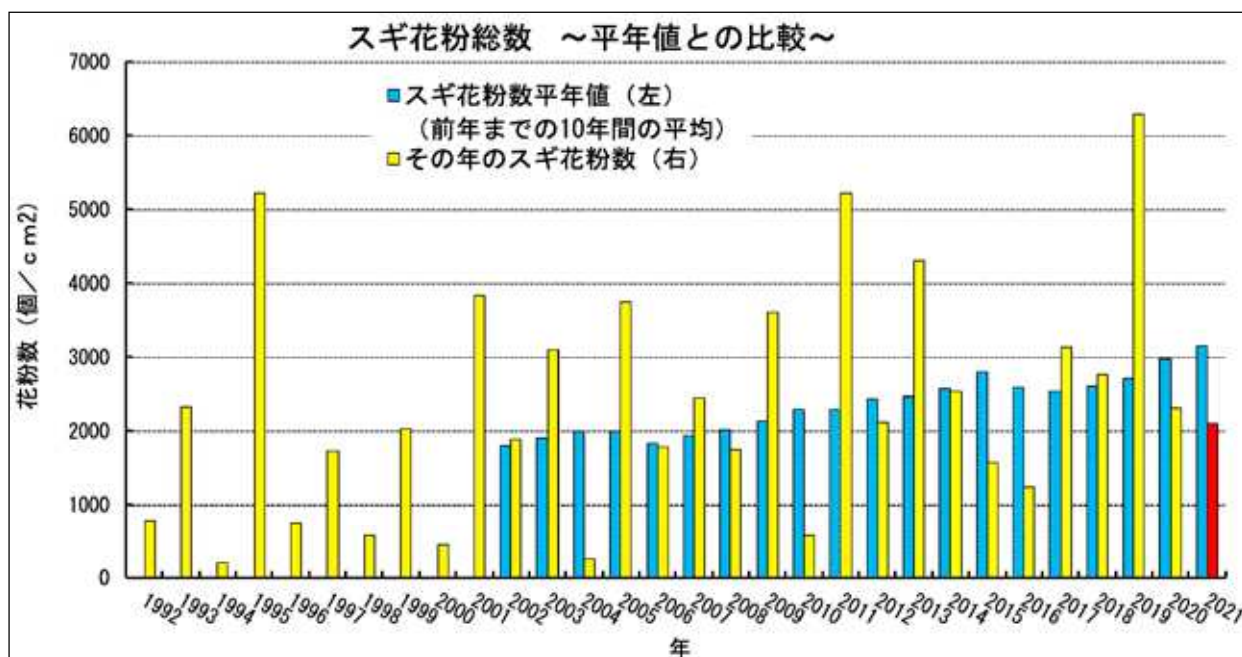


図14 スギ花粉数と前年までの平均